

老健施設での 「薬剤師業務」について考える

[第2回]

十川友那^[そごう・ともな]

三豊総合病院企業団
介護老人保健施設わたつみ苑(香川県)



第2回は病院併設型老健施設という強みを活かした、NST(栄養サポートチーム)と協働した取り組みを中心に紹介させていただきます。

ミールラウンドについて

摂食嚥下ラウンド(ミールラウンド)とは、歯科医師、看護師、言語聴覚士、管理栄養士、薬剤師などの多職種の専門家が、実際の食事場面を通じて摂食状況を観察し、摂食嚥下に関するアドバイスを行う回診のことです。病院併設型老健施設の当施設では、病院NSTメンバー全員で介入を行うことで「栄養サポートチーム等連携加算」を算定しています。

当施設では毎週水曜日の昼食時にミールラウンドが行われています。あらかじめ対象となる入所者をリストアップし、一人ひとりの食事場面を確認しながら、食事の際の姿勢、むせ、食べこぼし、食欲などをラウンドメンバーで細かくチェックしていきます。1回のミールラウンドで対象となる入所者は多いですが、30分~1時間程度で実施しています。

高齢者にとって食事摂取を中心とした栄養管理はとても重要ですが、認知症や脳血管障害による後遺症などにより食事摂取が難しい場合もあります。このような問題を多職種で解決していくために、ミールラウンドはとても有用です。歯科医師の介入による口腔機能管理や管理栄養士の介入による栄養管理、言語聴覚士の介入による嚥下訓練などを含めたりハビリ・機能訓練が適切に実施されることで、円滑な食事摂取および栄養状態の改善に寄与していると考えています。

また、摂食嚥下障害のある高齢者は誤嚥性肺炎

につながるケースも多いため、より効果的な介入を行い、誤嚥性肺炎の重症化を未然に防ぐ意味でも、ミールラウンドは重要な役割を担っています。

ミールラウンドでの薬剤師の役割

概要を聞いただけでは「薬剤師と一緒にミールラウンドを行う意義はあるのか?」と思われる方もいるかもしれません。しかし、薬剤師が同行することで、実際の嚥下状態を確認しながら、多職種による口腔機能・嚥下機能評価を踏まえた上で、現在処方されている薬剤の剤形が適切かどうかを判断し、より適切な剤形や投与方法の提案を行うことができます。

また、ラウンドのなかで多職種から薬効や薬物有害事象等の相談を受けることも多いため、さまざまな情報を効率的に取り入れることも可能となります。薬剤の剤形や処方変更・中止等に関する検討内容は、施設の担当薬剤師と情報共有することで、次回の定期処方薬の内容に反映しています。

薬剤適正使用ラウンドと薬剤師の役割

第1回でも記載のとおり、当施設では併設病院業務との兼務で、薬剤師1名が配置されています。2~3週間ごとの水曜日(2階入所者分)と金曜日(3階入所者分)に、医師が定期処方薬の検討およびオーダー入力を行う際には、薬剤師がそのフォローを行います。その前に、医師、看護師長、看護師、介護福祉士、薬剤師が、1時間ほどかけて入所者の薬剤適正使用ラウンドを行っています。

このラウンドでは入所者一人ひとりを回り、現在の状態を把握し、服用薬剤の効果や副作用の確認、